

増訂に際して

かねてより、日新月異の中国の進展に応じて、いかに増改訂をすべきかを考えておられた鈴木柾郎先生が、本辞典の改訂を始めたいと内山雅夫氏及び私に相談されたのはいつ頃だったか。1968年2月の中日大辞典刊行を機に郭沫若氏に願い出していた辞典関係者訪中希望が1973年6月漸く実現、南開大学・北京大学・復旦大学で中国の専門家と長時間に互り意見を交わすことができ貴重な経験を得たのだが、これを改訂に活かしたいと思っておられた。結局、鈴木先生は教授を辞し、胃切除の身をおして辞典改訂に専念する決意を固められた。幸い久曾神昇学長（当時）はじめ大学当局の賛同を得、1975年4月、中日大辞典編纂処を再び設置、編集主任 鈴木柾郎、編集委員長 今泉潤太郎、編集委員 陰山信男、黄異、荒川清秀、白井啓介の諸氏（1986年1月現在）による中日大辞典改訂編集委員会を発足させた。内山氏は参加されなかったが、この年の8月逝去された。心から御冥福を祈る。

今回の改訂は、あくまで現行版の枠組内での全面的増訂であるため、最近の“漢語詞滙的統計与分析”・“国家標準信息交換用漢字編碼字符集”・“統一漢字部首表”・“起筆統計表”・“漢語拼音正詞法基本規則（試用稿）”・“普通話異讀詞審音表”等の資料や最新の工具書を参照した抜本的改訂は将来に期することとした。改訂も軌道にのった82年1月、鈴木先生が急逝された。青天の霹靂である。先生の発意で始まり、情熱で進められてきた仕事であり、余人を以って代え難いが、我々が引き継ぎ完成させる他なかった。ただ、本文の大部分に目を通されていたことは不幸中の幸いであった。

増訂版は現行版にもまして日中友好合作・学術交流の所産である。前述の南開大学等に於ける辞典座談会をはじめ、交流の拡大に伴い増えてきた中国訪問学者や中国研修教員から多くの激励や援助を受けた。高臨渡氏・黄異氏の終止変わらぬ真摯な協力に対し謝意を表するとともに、高氏の御冥福を祈る。

北京語言学院劉青然氏・諸在明氏・蔡振生氏、中国人民解放軍外国語学院楊春臣氏らの協力に対し感謝の意を表す。特に、北京農業機械化学院黄志明氏は二年間も編集に協力された後帰国、間もなく病を得て逝去された。ここに御冥福を祈るとともに衷心より謝意を表す。池上貞一氏、井芹貞夫氏、岩尾正利氏、大林洋五氏、木田弥三旺氏、中山欽司氏、浜田国貞氏、森博達氏らの一方ならぬ協力に対し謝意を表す。特に名古屋市立大学薬学部稲垣勲氏の専門面での協力に対し感謝の意を表するとともに御冥福を祈る。この十年間、多数の本学学生の協力を仰いだ。この増訂版もまた学生諸君の協力の賜物である。ここに心からの謝意を表す。また当初より各種の事務を処理された松田文美子氏、1981年印刷段階に入り面倒な問題を解決しつつ校正に精進された加藤寛昭氏、日本語索引・検字表など最終段階の業務を遂行された影山裕子氏らの協力に対し衷心から感謝の意を表す。

本書の印刷・製本は凸版印刷株式会社に依頼した。同社はその CTS を駆使して本書を完成させた。増訂版の発行はこれを大修館書店にゆだねた。またこれまで中日大辞典発行に尽力された燎原書店に対し感謝の意を表す。

ここに見られる中日大辞典増訂版が世に出るまでには長年月に及ぶ学内外の多数の人達から様々な援助があった。衷心より感謝の意を表す。終りにあらためて謹んで鈴木沢郎先生の御冥福を祈る。

1986年2月1日

増訂版編集委員長 今泉 潤太郎

増訂版の補訂に当って

1985年12月、国家語言文字委員会・国家教育委員会・広播電視部の連名で発表された“關於普通話異讀詞審音表的通知”及び1986年10月、用字混乱を是正するため改めて人民日報に発表された簡化字総表の説明（国家語言文字委員会による）には、新たに前者には52字、後者は7字についてそれぞれ重要な決定がなされている。昨年出版した増訂版には時間的にこれら決定を盛り込むことは不可能であった。増訂版は幸い好評裡に迎えられ、いま増刷の必要が生じたので、この際これらを全面的に取り入れるとともに、新たに付録として審音表一覧を加え、更に本文の内容を追補し、表装も一新したので、ここに版を改め本書を増訂第二版とする。

1987年2月1日

〔注〕 後段は増訂第2版の序。